

2. 全数把握対象感染症患者報告状況

(1) 全数把握対象感染症の過去 5 年間の届出状況

	疾 患 名	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
二類	結核	188	291	241	161	153
三類	コレラ		1			
	細菌性赤痢	1		1	1	
	腸管出血性大腸菌感染症	27	14	7	5	11
四類	E型肝炎		1			
	A型肝炎	4				2
	オウム病			1		
	重症熱性血小板減少症候群 ¹⁾				2	7
	チクングニア熱 ²⁾				1	
	つつが虫病	1		1	1	1
	デング熱	2	1	1		1
	日本紅斑熱	5	10	1	2	13
	日本脳炎				1	
	マラリア		1			
	類鼻疽				1	
	レジオネラ症	2	2	3	3	1
五類	アメーバ赤痢	3	3	2	4	7
	ウイルス性肝炎(E 型、A 型を除く)		1		1	1
	急性脳炎					1
	クロイツフェルト・ヤコブ病		1	4		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3		2	1	1
	後天性免疫不全症候群	9	6	4	4	4
	ジアルジア症	1		1		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 ¹⁾					1
	侵襲性肺炎球菌感染症 ¹⁾				4	5
	梅毒	3	1	1	2	3
	破傷風	5	1	3	4	2
	風しん				30	2
	麻しん		1			

¹⁾ 平成 25 年より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

²⁾ 平成 23 年 2 月 1 日より全数把握対象疾患感染症へ指定された。

(2) 各疾病の届出状況

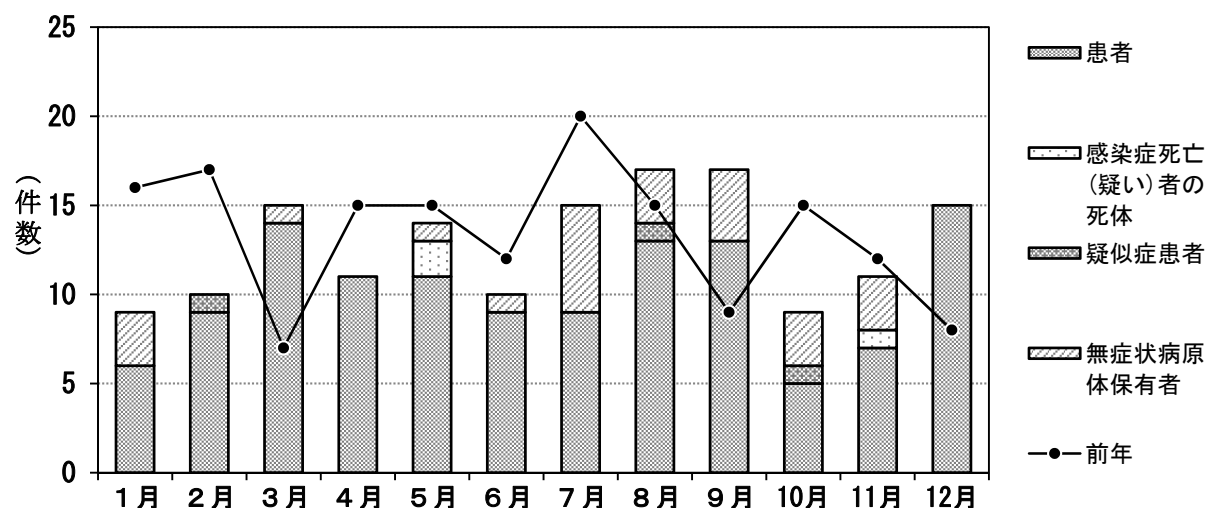
《一類感染症》

一類感染症の届出はなかった。

《二類感染症》

① 結核

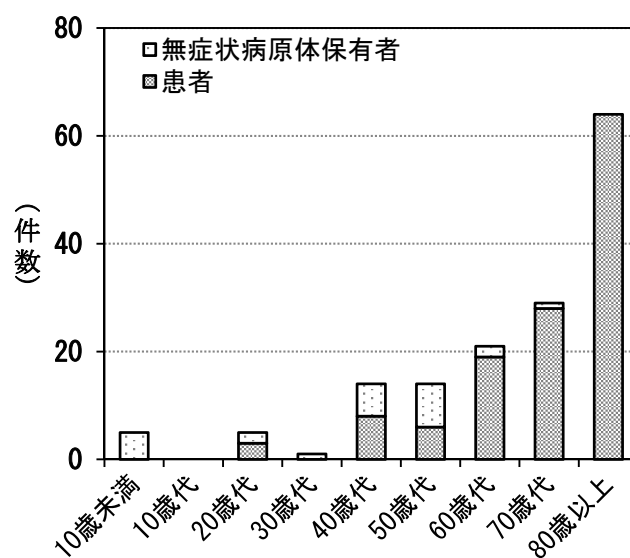
結核の月別届出数



【年齢・性別構成】

	男	女	計
10歳未満	2	3	5
10歳代	0	0	0
20歳代	2	3	5
30歳代	0	1	1
40歳代	5	9	14
50歳代	5	9	14
60歳代	16	5	21
70歳代	20	9	29
80歳以上	39	25	64
計	89	64	153

【年齢・症状別届出数】



平成26年の届出数は153件と前年(161件)とほぼ同数であり、過去5年間で最も多かった平成23年(291件)に比べ約半数の届出数であった。月別の届出数は9~17件で推移し、季節的な特徴は見られなかった。

症状別では、「患者」が125件(内訳:肺結核94件、その他の結核26件、肺結核およびその他の結核5件)(死亡(疑い)例も含む)と最も多く、「疑似症患者」3件、「無症状病原体保有者」25件であった。

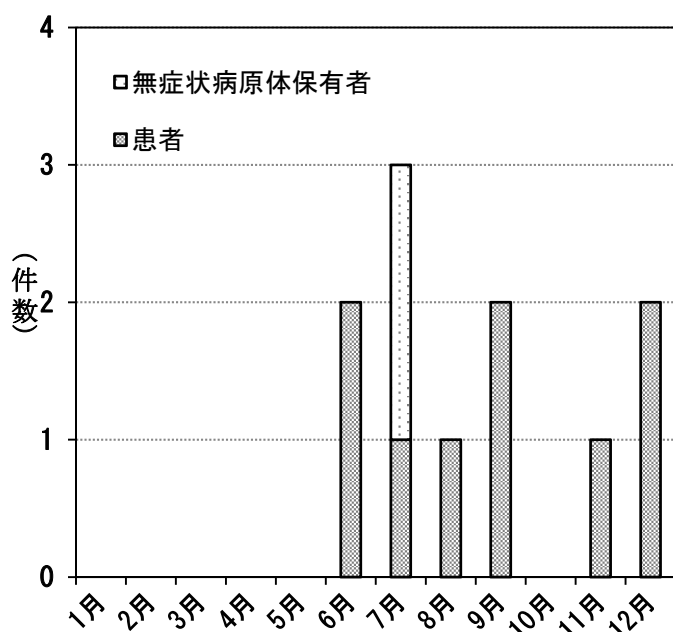
年齢別では、60 歳未満では各年齢層とも 10 件前後の届出数であったが、60 歳を越え年齢が高くなるにつれ大きく増加し、60 歳以上が全体の約 75%を占めた。性別では、男性 89 件、女性 64 件と男性が女性よりやや多く届出られた。

年齢と症状とを比較した場合、60 歳を境として大きく異なった。すなわち 60 歳以上では「患者」が約 97%と大部分を占めたのに対し、60 歳未満では「無症状病原体保有者」が約 56%と、「患者」の割合（約 44%）より高かった。また「無症状病原体保有者」の職業別では医療・介護などの施設関係者が約 28%を占めており、施設関係者に対する感染予防啓発、施設における感染対策の徹底が重要と考えられた。

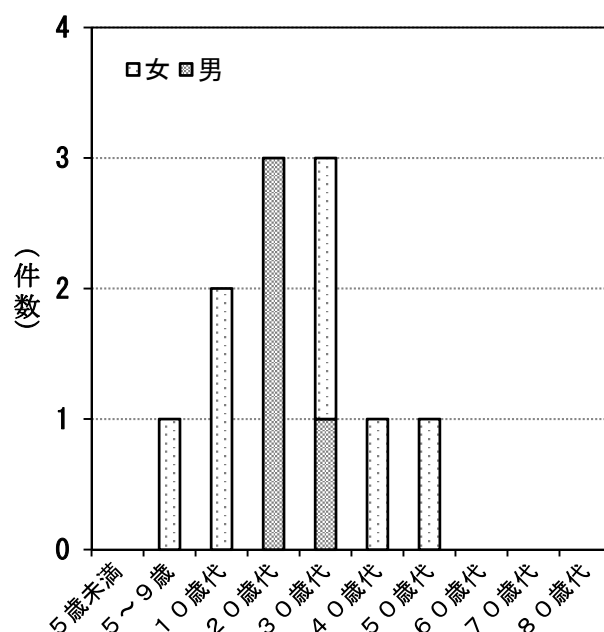
《三類感染症》

② 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症の月別届出数



【年齢・症状別】



診断月	性別	年齢	症 状	型別	推定感染地域
6 月	男	30 歳代	腹痛、血便	026 (VT1)	国内
6 月	男	20 歳代	腹痛、水様性下痢	0157 (VT1、VT2)	国内
7 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	0103 (VT1)	国内
7 月	女	10 歳代	腹痛、血便	0157 (VT1、VT2)	国内
7 月	女	30 歳代	無症状病原体保有者	026 (VT2)	国内
8 月	女	10 歳未満	腹痛、水溶性下痢、嘔吐、発熱	0165 (VT2)	国内
9 月	女	40 歳代	腹痛、水溶性下痢	0157 (VT1、VT2)	国内
9 月	女	30 歳代	腹痛	0157 (VT1、VT2)	国内
11 月	男	20 歳代	腹痛、水溶性下痢、血便	0157 (VT1、VT2)	国内
12 月	女	10 歳代	水溶性下痢	026 (VT1)	国内
12 月	女	50 歳代	腹痛、血便、発熱	0:UT (VT1、VT2)	国内

腸管出血性大腸菌感染症は、平成 23 年以前においては毎年 13～27 件報告されていたが、平成 24 年以降減少し、平成 26 年も前年（5 件）より増加したものの 11 件と届出数は少なかった。これは厚生労働省による生食用食肉の規格基準改正（平成 23 年 10 月より）と生食用牛生レバーの提供禁止（平成 24 年 7 月より）により生肉・生レバーの喫食が原因となる事例が減少したためと推察される。

月別の届出数も例年同様の傾向を示し、6～9 月が 8 件と夏季に集中し、その他の季節では 11～12 月に 3 件の届出があった。診断の類型は「患者」が 9 件、「無症状病原体保有者」2 件と「患者」の割合が多く、年齢別では 10 歳未満から 50 歳代まで幅広い年齢層から報告されたが、60 歳以上の高齢者からの届出は見られなかった。症状は、腹痛、水溶性下痢、血便、発熱、嘔吐等であった。血清型別では、本疾患の多くを占める 0157 や 026 の他に 0103、0165 などの血清型が報告された。

報告例の感染経路や感染源は、潜伏期間が 2～14 日と比較的長いこともあり、原因の特定には至らなかったが、全て国内にて感染したと推定されている。

《四類感染症》

③ A 型肝炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	女	20 歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝機能障害	経口感染	国内
9 月	男	40 歳代	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝腫大、肝機能障害、嘔気	不明	国外（ナミビア、ボツワナ、ザンビア、ジンバブエ）

A 型肝炎は、20 歳代女性及び 40 歳代男性の計 2 件届出られ、本県では平成 22 年に 4 件報告されて以降、4 年ぶりの患者報告であった。本疾患は潜伏期間が 2～7 週間と長いため、感染経路の特定にはいたらなかったが、1 名は県内で、もう 1 名はナミビア、ボツワナ等国外で感染したものと推定された。

④ 重症熱性血小板減少症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	男	80 歳代	発熱、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、刺し口、肝障害	マダニ等からの感染	国内
6 月	男	60 歳代	発熱、全身倦怠感、白血球減少、リンパ節腫脹、刺し口	マダニ等からの感染	国内
7 月	男	60 歳代	発熱、筋肉痛、神経症状、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、リンパ節腫脹、消化管出血、刺し口	マダニ等からの感染	国内
8 月	女	80 歳代	発熱、神経症状、下痢、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内
9 月	女	80 歳代	発熱、神経症状、下痢、嘔吐、食欲不振、血小板減少、白血球減少、刺し口	マダニ等からの感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	女	80 歳代	発熱、神経症状、食欲不振、全身倦怠感、血小板減少、白血球減少	マダニ等からの感染	国内
9 月	女	70 歳代	発熱、神経症状、腹痛、下痢、血小板減少、白血球減少、出血傾向、消化管出血	マダニ等からの感染	国内

重症熱性血小板減少症候群は、平成 25 年 1 月国内で初めての感染例が報告され、平成 25 年 3 月 4 日より四類全数把握対象感染症に指定された。

平成 25 年は 2 件の届出であったが、平成 26 年は 7 件と大きく増加した。届出月はマダニの活動時期にあたる 6～9 月に集中し、感染経路は畑作業中などの野外活動時にマダニ等に刺咬され感染したと推定されている。徳島県では本疾患をはじめ、つつが虫病、日本紅斑熱など、原因微生物を保有するダニや昆虫の刺咬による感染症が、毎年のように報告されている。登山、森林作業、農作業など野外作業機会の多い中高年者を中心に、ダニ・昆虫媒介性疾患に対する予防対策の啓発が重要と考えられた。

⑤ つつが虫病

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	女	70 歳代	発熱、発疹、嘔吐、腹痛	ツツガムシ等からの感染	国内

つつが虫病は、1 件届出られた。過去 5 年間では 0～3 件の届出数で推移している。報告月は発生報告の多い冬から春先にあたる 2 月で推定感染地は県内であった。

⑥ デング熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	女	10 歳代	発熱、発疹、血小板減少、嘔吐、腹痛、白血球減少、出血	蚊・昆虫等からの感染	インドネシア

デング熱は、約 70 年ぶりに東京都を中心として国内発生（162 例）が見られた。県内でも 3 月に 1 件届出られたが、インドネシアにて滞在中、蚊に刺咬されたことによる感染と推定された。

デングウイルスを媒介するヒトスジシマカは、東北地方以南に広く分布し、夏季を中心に活発に活動する。ダニを含め昆虫媒介性疾患は、刺咬されないことが第一の感染予防策であり、広く啓発したい。

⑦ 日本紅斑熱

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	男	80 歳代	発熱、刺し口、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	60 歳代	発熱、刺し口、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6 月	男	70 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	90 歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
6 月	女	50 歳代	発熱、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
7 月	女	70 歳代	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
8 月	男	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
8 月	女	80 歳代	発熱、頭痛、刺し口、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9 月	男	60 歳代	発熱、刺し口、発疹、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
9 月	男	60 歳代	発熱、頭痛、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
10 月	男	70 歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内
10 月	男	60 歳代	発熱、発疹、DIC、肝機能異常	マダニ等からの感染	国内
10 月	男	50 歳代	発熱、刺し口、発疹	マダニ等からの感染	国内

日本紅斑熱は平成 24 年（1 件）、25 年（2 件）と 2 年続けて報告数は少なかったが、本年は 13 件と大きく増加した。過去 10 年間においても届出数は 0～13 件と年毎による差が大きい。届出月別は、ダニの活動時期にあたる春から秋、5～10 月に集中し、年齢層はすべて 50 歳以上の中高年齢層であった。また本疾患は、畑や森林での野外作業中での感染が数多く報告されているが、届出られた大半がレジャーや農作業等の野外作業において、ダニに刺咬されたと推察されている。

⑧ レジオネラ症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	男	60 歳代	発熱、意識障害、肺炎、肝障害	水系感染	国内

レジオネラ症は毎年 2～3 件の報告数で推移し、本年も 1 件届出られた。病型は「肺炎型」で、感染地域は県内、感染経路は水系感染と推定されている。

《五類感染症》

⑨ アメーバ赤痢

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	40 歳代	大腸粘膜異常所見	性的接触	国内
4 月	男	60 歳代	粘血便、腹痛	不明	国内
8 月	女	30 歳代	下痢	不明	国内
8 月	男	50 歳代	下痢、粘血便、しぶり腹、鼓腸、腹痛、発熱	不明	国内
8 月	男	40 歳代	下痢、粘血便	不明	国内
9 月	男	40 歳代	無症状	不明	国内
11 月	男	70 歳代	無症状	性的接触	国内

アメーバ赤痢は、毎年 2～5 件報告されていたが、平成 26 年は 7 件とやや増加した。性別は男性 6 名、女性 1 名と男性が多く、年齢は 30～70 歳代、すべて国内にて感染したと推定されている。推定感染経路は性的接触が 2 例、不明 5 例であった。

⑩ ウイルス性肝炎（E 型、A 型を除く）

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
6 月	女	30 歳代	全身倦怠感、発熱、肝機能異常	性的接触	国内

ウイルス性肝炎は、6 月に 1 件届出られた。年齢は 30 歳代で、病型は「B 型肝炎」であり、国内にて感染し、感染経路は「性的接触」と推定された。過去 5 年間では、平成 25 年に「B 型肝炎」が 1 件、平

成 23 年には「C型肝炎」が 1 件届出られている。

⑪ 急性脳炎

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
11 月	女	1 歳未満	発熱、痙攣、髄液細胞数の増加	分娩時接触	国内

急性脳炎は、11 月に 1 件届出られた。年齢は 1 歳未満、病原体は「単純ヘルペスウイルス」であり、感染経路は、分娩時の母子(垂直)感染と推定された。

⑫ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
9 月	男	60 代	ショック、腎不全、軟部組織炎	不明	国内

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 9 月に 1 件の届出があり、年齢層は 60 代で、壊死軟部組織より A 群溶血性レンサ球菌が分離されている。推定感染経路は不明であった。

⑬ 後天性免疫不全症候群

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	男	60 歳代	咳、発熱、呼吸不全、ニューモシスチス肺炎、サイトメガロウイルス感染症	不明	国内
6 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触 同性間性的接触	国内
8 月	男	40 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	国内、タイ
9 月	男	20 歳代	無症状病原体保有者	異性間性的接触	不明

後天性免疫不全症候群は前年と同じく 4 件の届出があり、過去 5 年間では毎年 4～9 件報告されている。年齢は 20～60 歳代、性別はすべて男性、病型は「患者」1 件、「無症候性キャリア」3 件であった。推定感染経路は、不明 1 件を除き同性または異性間の性的接触であり、感染地域は、不明を除き 2 例は国内にて感染したと推定された。現在、保健所等を中心に利用者の利便性に配慮した無料検査・相談体制が実施されている。本年、報告された 4 件のうち 3 件は県内保健所で実施された無料検査にて発見されたものであった。今後もハイリスク層や検査を受けていない 20～40 歳代を中心とした幅広い年齢層に対しより積極的な普及啓発を推進し、HIV 感染の早期発見による早期治療と感染拡大の抑制に努めることが重要と考えられた。

⑭ 侵襲性インフルエンザ菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
3 月	男	60 歳代	発熱、菌血症	不明	国内

侵襲性インフルエンザ菌感染症は、平成 25 年 4 月 1 日より全数把握対象感染症に指定されてより、初めて 3 月に 1 件届出られた。60 歳代の男性で、国内にて感染したと推定された。

⑮ 侵襲性肺炎球菌感染症

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
1 月	女	80 歳代	頭痛、発熱、意識障害、項部硬直、髄膜炎、菌血症	不明	国内
3 月	男	70 歳代	発熱、咳、全身倦怠感、肺炎、菌血症	不明	国内
4 月	男	50 歳代	発熱、全身倦怠感	飛沫感染	国内
11 月	男	70 歳代	発熱	不明	国内
12 月	女	90 歳代	発熱、肺炎、菌血症	不明	国内

侵襲性肺炎球菌感染症は、前年(4 件)とほぼ同じく 5 件届出られた。年齢は 50～90 歳代、すべて国内にて感染したと推定されている。

⑯ 梅毒

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
2 月	女	60 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
3 月	女	50 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内
12 月	女	80 歳代	無症状病原体保有者	不明	国内

梅毒は毎年 1～3 件届けられ、本年は 3 件の届出があった。年齢は 50～80 歳代の女性で、病型はすべて「無症状病原体保有者」、国内にて感染したと推定された。

⑰ 破傷風

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
4 月	男	70 歳代	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、反弓緊張	創傷感染	国内
10 月	女	60 歳代	筋肉のこわばり、開口障害、	創傷感染	国内

破傷風は 2 件の届出があった。年齢は 60～70 歳代、感染経路は創傷感染と推定されている。過去 5 年間の届出状況は、年間 1～5 件で推移している。

⑱ 風しん

診断月	性別	年齢	症 状	推定感染経路	推定感染地域
5 月	女	30 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	不明	国内
5 月	男	40 歳代	発疹、発熱、リンパ節腫脹	接触感染	国内

風しんは、全国流行の見られた前年(30 件)から減少し、流行時期といわれる春頃(5 月)に 2 件届出られた。風しんは、抗体価の低い女性が妊娠中に罹患すれば、子供に難聴など重い障害(先天性風しん症候群: CRS)が起こる可能性があるため、今後もワクチン接種による予防啓発を進めたいと考えられた。